

第12回鹿児島招待ラグビー

平成28年6月12日(日)

天候：雨

鹿児島県立鴨池陸上競技場

9：30キックオフ 鹿児島オールブラックス vs 鹿児島ジュニア

11：00キックオフ タイ・バーバリアンズ vs 鹿児島銀行

13：00キックオフ 早稲田大学 vs 明治大学

第1試合【9：30キックオフ】鹿児島オールブラックス vs 鹿児島ジュニア

第1試合は今年度の鹿児島県ジュニアラグビー選手権の開幕試合となる、鹿児島オールブラックス vs 鹿児島ジュニアの試合。この2チームにライジングサンを加えた3チームで争う。1位のチームは九州大会へ出場、更に九州大会で2位以内に入ると全国大会への道が開かれる。鹿児島ジュニアのキックオフで試合開始。序盤両チーム果敢に展開をするが、整備されたDFのプレッシャーと、雨ということもありハンドリングミスも多く見られ、お互いにリズムを作れず膠着状態。最初にチャンスを迎えたのは鹿児島ジュニア。7番の石原幸亜のオープンキックを11番光司武徳が素早いチェイスでプレッシャーをかけボールの再獲得に成功。密集サイドをFWが前進を図りゴールに迫る。インゴールに飛び込んだかと思われる場面もあったが、寸前のところで身体を張り押し返す。ゴール前で我慢比べが続いたが、最後は鹿児島オールブラックスがターンオーバーに成功。ピンチを脱し前半はスコアレスドローにてハーフタイムへ。



ハーフタイムには鹿児島オールブラックスのベンチから「ALL OUT!!」の檄が飛ぶ。後半均衡を破ったのは鹿児島オールブラックス。後半5分相手陣22m左スクラムか右サイドへ大きく展開。フェーズを重ねてゴール前まで迫り、最後はDFの一瞬の隙を突き、ぽっかり空いたラックサイドをつき4番橋口歩武がインゴールへ飛び込んだ。ゴールは外れるものの鹿児島オールブラックスが5-0とリードする。リードした鹿児島オールブラックスは広く大きくボールを動かさず展開力と、準備してきたであろうショートサイドへのアタックで再三ゲインラインを突破し攻撃の手を緩めない。一方リードされた鹿児島ジュニアのDFも必死に食らいつきゴールを割らせず、キックでのエリア獲得とラックサイドへの攻撃

で反撃を図る。一進一退の攻防のなか後半18分鹿児島オールブラックス陣で鹿児島ジュニアがチャンスを迎える。左22m付近のスクラムからCTBクラッシュ。タックルを受けるも簡単には倒れずDFの裏に出た所を走りこんできた10番平井半次郎へオフロードパス。そのまま走りきりトライ。ゴールも決まり5-7と逆転に成功した。残り時間もあとわずか「このまま決まったか…」と思われたトライ後のキックオフのボールを鹿児島ジュニアがノックオン。鹿児島オールブラックスが相手陣22m内でスクラムを得る。スクラムから5番岩重太陽が左サイドへ持ち出し前進。ラックから素早く右のショートサイドへ展



開。素晴らしいタイミングでパスが回り最後は途中出場の18番鶴田悠馬がインゴールへ駆け抜け再逆転に成功。両チーム「ALL OUT」した結果、劇的な幕切れを迎え10-7で鹿児島オールブラックスが勝利を手にした。

第2試合【11：00キックオフ】タイ・バーバリアンズ vs 鹿児島銀行

第2試合はタイ・バーバリアンズ vs 鹿児島銀行。この試合は、第3回サイアム・薩摩ラグビー杯（通称：SS Cup）と位置づけられ、Thai Barbarians ラグビークラブと鹿児島銀行ラグビー部との間で開催された。SS Cup は、2014年4月に鹿児島県出身でタイ国日本人会ラグビー部部長、およびタイ-鹿児島ラグビー交流事務局長の下前原氏が、元アジアラグビー協会会長のアディサック・ヘムユー氏を鹿児島に招待した際に、アディサック氏がオーナーを務める Thai Barbarians ラグビークラブと鹿児島県の代表チームと間で、毎年鹿児島とバンコクの間で交互に持ち回りで開催することで鹿児島県ラグビー協会と合意し、設立された定期戦。SS Cup は、地元鹿児島とタイの間で人の行き来を活発化させ、経済・観



光・文化スポーツの交流促進による地方創生の一つのモデルにすることを目的とする。

試合は鹿児島銀行のキックオフで開始。開始からFWの圧力で上回る鹿児島銀行が攻勢に出る。前半4分タイ・バーバリアンズ陣の右ゴール前のラインアウトのチャンスを得ると、モールから一気に押し込み5番渋谷泰志がトライを決め0-5とする。前半10分鹿児島銀行が15番永田佑輔のキックカウンターから相手陣22mまでビッグゲイン。そこでできたラックから更に7番がクラッシュし、そのラックからクイックボールがBKへ。10番→12番→14番と繋ぎそのまま14番浜崎直弥がインゴールへ飛び込み0-10と優位にゲームを運ぶ。一方タイ・バーバリアンズは主将のNO.8を中心に個人技に優れた選手も多く、タックルを受けながらもボールを上手く繋ぎ外のスペースへ攻撃を仕掛けるが分厚いDFにあい中々得点に繋げることができなかった。その後も鹿児島銀行はFW戦で優位に立ち、チャンスと見るとスピード豊かなBKラインへボールを回し攻撃を仕掛ける。前半27分には相手陣ゴール前でBKに展開と見せかけインサイドに走りこんだ鹿児島銀行主将2番の大山祐樹にパスが渡りトライ。前半33分には5番渋谷泰志は豪快に縦突破をしてこの日2トライ目を挙げる。前半36分には相手キックオフから8番堂菌幸祐が抜け出しビッグゲイン。一度ボールが相手に渡りかけるも、転がったボールを鹿児島銀行4番山本恒太が拾い約30mを走り抜け得点を追加して0-31とし前半を終えた。後半は巻き返しを図りたいタイ・バーバリアンズのキックオフにてスタート。前半の途中からメンバーを少しずつ入れ替えて反撃の機会を伺うが後半も鹿児島銀行のペースは衰えない。後半5分タイ・バーバリアンズ陣22mスクラムの鹿児島銀行ボールのスクラムから8番堂菌幸祐の突進を皮切りにラックサイドを連続攻撃。相手がラックへ集中しだした所をBKラインへ展開し最後は11番釘崎祐二がトライをあげる。更に後半9分には後半から投入された鹿児島銀行の18番永濱義隆が鋭いステップからラインブレイクしてそのまま約30mを走りきりトライ。後半18分にはモールから6番笠茂祐治がトライ、後半35分には相手反則で得たペナルティのクイックリスタートから鹿児島銀行18番永濱義隆が2人かわしてこの日2トライ目を挙げ、最終スコアは0-59で鹿児島銀行が勝利した。鹿児島銀行の勝利の要因として、12番前田宗一郎のトライ後のコンバージョンの成功率の高さと、10番丸山淳平のロングキックでエリアを確実に前進させたこと。フル出場を果たした2名の活躍もあり、第3回にして初めて鹿児島がSS Cupを手にした。



第3試合【13：00キックオフ】早稲田大学 vs 明治大学

第3試合は早稲田大学 vs 明治大学の春の定期戦。伝統の早明戦とあり県立鴨池陸上競技場には、ラグビー関係者や両校のOB&OGが県内外から集まる注目の一戦となった。またこの日、明治大学の21番として鹿児島オールブラックス出身の三股久典（甲東中→佐賀工業）がメンバーに名を連ね、約3000人の地元の声援を受けた。



試合は早稲田ボールのキックオフで開始。先制は明治大学。開始4分14番高橋汰地（2年）が右隅にトライで0-5とする。その後も勢いを得た明治大学が攻め立てる。流れは明治大学かと思われた前半17分。明治ゴール前10m付近で得たスクラムで早稲田FWがプレッシャーをかける。たまたま反則を犯す明治大学。早稲田大学は再度スクラムを選択しプレッシャーを掛け続け、ついには明治大学1番鶴川竜彦にシンビンがでる。更に優位になった早稲田大学は、そのスクラムで明治大学を押し切り8番佐藤真吾（2年）がトライを奪い5-5の同点とした。明治大学は丹羽監督が3番矢野佑弥（4年）から18番塚原巧巳（4年）へと戦術的交代を指示してスクラムにテコ入れを図る。ここまで完全に早稲田大学が制圧していたスクラム。シンビンで明治大学FWが一人少なく、ここから更に勢いに乗りたいたころであったが、この交代により明治大学スクラムが蘇る。前半32分明治陣22m内の明治大学ボールのラインアウトに早稲田大学がプレッシャーをかけ、こぼれ球に素早く反応してターンオーバーに成功。そこから右へ大きく展開して14番本田宗詩がトライ。10番岸岡智樹のキックも成功して12-5とリードする。しかし明治大学も黙ってはいない。直後の35分早稲田大学が自陣でハンドリングミスをして、ボールをデッドに蹴り出し、ゴール前で明治大学ボールのスクラムを獲得。蘇った明治大学のスクラムは早稲田大学のペナルティを誘い、再度スクラムを選択。そのスクラムから8番前田剛（3年）がサイドをつきトライ。10番忽那鐘太のゴールも成功して12-12と



同点とし前半を終えた。

後半のキックオフは明治大学。序盤攻勢に出る早稲田大学であったが、後半8分に10番岸岡智樹が危険なプレーでシンビンとなる。司令塔を欠いた早稲田大学の混乱は避けられず、11分に明治大学がキックチャージのボールをそのまま押さえ2番佐藤公彦がトライし12-17とリードに成功。直後の12分に鹿児島県出身の21番三股久典が会場からの大きな声援を受けながら交代出場でピッチに登場。アタックでは軽快なパス捌きでリズムを作り、ディフェンスでは的確なコーチングで味方を動かした。しかしリードを許している早稲田大学も黙ってはいない。後半24分には相手陣10m付近からPGを狙う。27分にはグラウンドを広く使う展開でゴール前2対1の場面を作る。しかしいずれも惜しくも得点には結びつかずチャンスを逃す。試合時間も残す所5分を切りこのまま試合が決まるかと思われたところからドラマが生まれる。後半36分早稲田大学が相手陣22m内のラインアウトから13番中野将伍が力強くセンタークラッシュ。フェーズを重ね10番

岸岡智樹がDFのわずかな隙をステップで潜り抜けトライし遂に逆転に成功し19-17と試合をひっくり返す。しかし直後のキックオフからすぐさま明治大学が仕掛ける。相手陣10m付近に蹴ったボールは競り合いの中、こぼれ球を15番山崎洋之（1年）が拾いあげる。追ってきたDFをハンドオフでかわし左隅にトライし19-24と再逆転に成功。残り僅かの時間最後まで攻める早稲田大学の猛攻をしのぎそのままノーサイド。明治大学の勝利となった。残り5分弱でのお互いの目の離せない攻防に魅了され、鹿児島島の観客から両チームへ惜しみない拍手が送られた。

